

議事概要

内 容：まちづくり懇談会

日 時：令和7年8月22日（金） 18：30～20：00

場 所：ベルウイング武道交流館（名張市武道交流館いきいき）

参加者：41名

質疑・懇談概要

Q：中学校給食について

川西・梅が丘地域づくりの会議で梅が丘の若い方や役員会などからよく出てくるのが「学校給食」の問題です。

今、名張市の現状はお金がありません。半年ほど前に51億の赤字の話、また市立病院の話など色々。ここまでに至る借金は一北川市長の責任と言う訳ではなく、累積だということは市民も十分理解しています。

その中で、市長が公約で「学校給食を何とかしよう」と言われたことにとっても期待していました。ところが5月28日に市のホームページで「給食を延伸する」という記事を読み、地域づくりの方でも話題に上がってきたと同時に、「各地域でも貴重な話を聞いたかった」という意見が非常に多かったです。3ヶ月たって、こうして生の声を聞いていただきましたが、できるだけ早い時期に各地域にお話いただきたかった。

その中で、平成7年の小学校児童数のピークが7,053人。今は小学校約4,000人、中学校約2,000人、合わせて約6,000人（※）。人口減少は全国的に言われていますが、名張市は今申し上げた数字です。

（※）令和元年頃は合わせて約6,000人でしたが、令和7年5月1日では、小学校3,493人、中学校1,921人、合わせて5,414人となっています。

「小学校で作って中学校に配達する方が良いのでは」という意見があります。例えば、錦生赤目小学校で作ったものを赤目中学校へ、桔梗が丘小学校なら桔梗が丘中学校、美旗小学校なら北中学校、名張小学校なら名張中学校といった形で、小学校で作った給食を中学校へ回すのはどうかと。先ほどのPFI方式よりもお金がかからないのではないかという声もあります。

今、一般的な時給が1,000円として、学校給食を1時間かけて年間150日作ると、ざっくり約3億円ぐらいかかるんです。じゃあ市立病院を優先するのか、給食を優先するのか、どちらを優先順位とするのがいいのか。これは本当に、いま子育て中の保護者の声として、川西・梅が丘地域づくりで常に議題に上がっています。

「なんとかなるなる」というロゴができ、みんなが期待している現状です。し

かし5月28日以降、「なんとかならないんじゃないか」という冗談まじりの声も出ています。

今日の市長の話を聞いて、本当に学校給食をどこまで、いつから着手していくのか。例えば「令和9年から着手する」といった具体的な日にちを出していただいた方が期待度が高まります。「いつ給食してくれるの？」という不安より、夢や期待を持てる具体的な方向性を示していただければ、市民も頑張れるし行政にも協力していけると思います。早く明確にしていきたい。

最後に、住民主体のまちづくりは、市議会で決まる前に市長から「こうやっていきたい」と示し、市議会で決まったら各地域に「こういう風に議会で決まりました。こういう風に赤字財政をこう立て直していきます」と何らかの方法で各地域の住民に伝えていただくと、不信感は消えていくと思います。市民も「一緒に頑張っていこう」という希望が持てる名張市にしていきたい。これは川西・梅が丘地域づくりからの意見です。よろしくお願いいたします。

A：市長

中学校給食の実現については、昨年秋に財政が厳しくなってからも様々な手法を検討してきました。小学校、中学校の片方で作って片方をカバーする、いわゆる親子方式について我々も検討させていただいています。「小学校の給食室を使って中学校へ提供できないか」と議論し検討もしましたが、現在の小学校の給食室は基準に合わず、新たに提供するには大規模改修が必要で、今の状態のままで拡大していくことはできない状況でした。結果として「小学校の給食室を使いながら中学校に給食を持っていく」という手法は残念ながら叶わなかったところがあります。

単純に「センター方式」というだけでなく色々な手法を考えました。給食設備には面積が結構必要になりますので、簡単に作れるところ、作れないところがありますから、例えば、自校方式ができる学校と、小学校の給食室を改修して中学校へ配送したり、足りない部分を伊賀市や周辺の自治体に助けてもらい賄うような組み合わせも考えましたが、給食を平等に完全実施できる数字を出せなかったため、着手を延伸させていただいたという状況にあります。

おっしゃっていただいたとおり、この延伸の話を発表させていただく時には、「財政事情や市立病院の経営改善状況を含めた全体を見極め総合的に判断します」と申し上げましたが、これは何としてでもやりたいし、やらなければならない中で、少なくともどういう年度という表現になるかはわかりませんが、今の段階では、今年度中には『いつ、どの程度の時期に、どうなるんだ』ということをも市民の皆様方に説明をできなければならないと考えています。私の想いとし

ては、「今年度中にいつを目途に提供できるようにしたい」と明示できるよう、きちんと組み立てをしていきたいので今しばらくお時間を頂戴したいのでよろしく願いいたします。

Q：公共交通等、桔梗が丘駅前について

懇談会会場が公共交通で行きづらい。電車とバスを利用して来たが、本数が少ない。桔梗が丘市民センターや市役所のようなアクセスの良い場所で開催することや会場へのバスを運行するなど、高齢者の免許返納も進んでいることから、誰もが来られるよう配慮をしていただきたい。

桔梗が丘の近鉄プラザの跡地利用について、例えば名張郵便局は駐車場が狭く路上駐車も多いので近鉄プラザへ持ってくる。するとバスに乗らずとも電車で利用ができる。近鉄プラザ1階には名張市役所の機能を移設する。また3階に図書館・多目的会議室をつくるなどできないか。

タクシーに関して、信号待ちで費用が変わるので定額にできないか。軽自動車のタクシーにして運賃を下げるなど工夫はできないか。

A：市長

本懇談会の場所は5か所で設定させていただきましたが、公共交通機関で行きづらいということですが、24日は防災センター（市役所隣り）で設定しておりますので、比較的行きやすい場所になるかと思います。概ね中学校単位のエリアで開催する計画でしたが、桔梗が丘市民センターでは、開催日や時間帯の調整の中で、会場が取れずこの設定となりましたことをご容赦ください。

また、桔梗が丘の駅前再生については、地域づくり組織の皆様からもたくさんのご意見をいただき、勉強会もさせていただき、そのご提案は近鉄へ私から直接お届けさせていただいております。歯がゆいのは、市の施設でない、近鉄不動産が持つ施設ですから、提案という形にとどまっています。

また、建物が大きく、空調・照明など機械設備の老朽化で、入ってすぐに使える状態ではないという厳しさがあります。大型施設に入っていただき収益も上げながら修繕費も賄えるというパターンができればよいのですが、引き続き近鉄側と議論を続けたいと思っておりますので、地域からも色々ご意見・ご要望を出していただければとお願いしています。

Q：中学校給食、市立病院、子ども医療について

近々中学生に上がる子どもを抱えており我が家の話でもあるのですが、市立病院の財政の悪化について、令和7～10年度の4年間で十数億の悪化という

ことで、元々200床あって、今減らしているとのことですが、県内でも同規模の病院はいくつかあります。名張も病床を減らすと亀山市立医療センター規模に近づくとおもいます。どこの公立病院も赤字で、尾鷲市でも年間約7億の赤字と聞きます。高齢化率も尾鷲は40%超で、名張より厳しいはずですが、中学校給食は無償化しているはずで、県内で未実施は名張だけ。病院経営が厳しいから給食は提供できませんと言われても納得しがたいところです。同じ条件なのに、なぜ名張だけできないのでしょうか。

市長は「若い人に名張に残ってもらえる、出ていったとしても心に残してもらえる」ということをおっしゃっていましたが、中学校給食を提供していないのは三重県で名張だけなのに、若い人たちに「名張」を心に残してほしいと言われてもそれは理想を言っているだけで、言ってることとやってることがマッチしていない気がします。

また、子ども医療費助成について、県内ではほとんど市が負担しているところ、名張市は所得制限を設けていると思います。高額納税している人に負担してもらっており、高額納税者に魅力のないまちになっている訳ですね。若い人に残ってもらって税収確保したいと言ってるのに、そういった方にとって魅力のないまちになっている。これから若い人がどんどん出ていく可能性があるということ。資料14ページのグラフについて、給食を採用しない場合の財政の推移は、あくまで若い人が残った状態でのもので、給食を実施しないことで転出が進めば、示されたグラフは右肩下がりになるはず。これは市長にとって都合の良いグラフになっている印象を受けます。

給食センターは20億円くらいで建てるができるとのことですが、先延ばしすれば、昨今の物価高で、5年後に同額で建てられる保証は無い。早く建て、給食費などを保護者に負担してもらってでも早く進めるという案はなかったのかと思います。

A：市長

市立病院の赤字に関して、公立病院は7～10億円程度の赤字が多く、名張も同様です。そこにさらに12億円を4年間で上乗せして穴埋めしていかなければならない状況で、非常に厳しい数字になっています。

ただし、子育て支援もそうですが、そこに投資をしていかないと人口減少に拍車がかかる、という心配は非常にしています。このため令和7年度の予算編成でも、財政健全化、災害対応、人口減少対策の3点は、財政が非常に厳しい中にあっても一定やらなければならないと常に申し上げます。

よく引き合いにだすのが、リーマンショック時に投資をした企業と投資をし

なかった企業の回復度合いが全然違ったといった話で、お金がないから何もしないという企業はリーマンショックが回復した後も全然伸びなかった、一方厳しくても最低限の投資を続けた企業は回復が早かったというのはよく言われた話です。

子育て支援、人口減少対策も同じで財政が厳しくてもやっていかなければならないという想いで職員には話をしています。とはいえ、2～3億円を一般財源で負担していくことが非常に厳しい中で、とりあえず今立ち止まったというところ。ただ、できるだけ早く、今年度中に「いつどうなるか」を説明できるような責任を果たしたいと思っています。

若い人に限らず全ての市民にとって魅力のあるまちでなければいけないと思っています。とりわけ、その中でも次の世代を担っていただく方が居なくなるとまちが滅びてしまいますので、次の世代に特に注力しなければならないという現状認識はさせていただいており、できるだけ早く着手できるようにしていきたいと思っています。

あわせて産科の問題についてですが、財政が厳しいですが、なんとか投資をしてでも分娩が回復できないかと模索しています。産科問題の最大の原因は人口減少です。少し前まで名張で生まれる方が年間500～600人でしたが、いまは約300人。産科は年間200～240人の出産を扱わないと採算が取れず、産科は特別で、医師2～3名と助産師5～6人、看護師を抱えながら24時間365日、人を置いて対応する必要があります。300人産まれていても一か所で産む訳ではなく、現状市内の産科も最終的には200件を切って150件程度だったと思います。これを維持していくためには、行政が資金的支援をしていかなければ、その仕組みを作らないとこの名張で分娩を続けていただくことは難しい、その財源を作り出すことができるのか、といったところを研究しながら、なんとかこれも年度内に方向性を示したい。

これから結婚して子どもを産んで、あるいは結婚されていて子どもを産みたい、2人目3人目をどうしようかと思っている、そういう人たちにきっちりとした答えを届けたいと思っています。

Q：市民への周知、子どもの登下校について

本日、桔梗が丘市民センターでの会場確保ができなかったということですが、重大な説明であれば9月に入ってから開催でもよかったのでは。交通の便のことや桔梗が丘は人口1万3千人、6500世帯の地域でもあり、もう少し吟味して周知の徹底をしていただくなども必要だったかと思います。

子どもの暑さ対策について、もうすぐ2学期が始まります。下校時には猛暑

下で15時ごろに下校するが、気温は37℃にもなる。日傘をさしている子もいるが、登下校時の暑さ対策をどう考えているか、教育委員会の見解をお聞かせください。

A：教育次長

下校に関して、2学期の開始は、例年8月下旬から2学期を開始としています。授業時間数の確保も必要で、期間の変更は難しい面があります。猛暑の中での登下校対策については、ご意見を踏まえて十分に検討します。

Q：中学校給食について

説明を聞いて、市がネーミングライツやクラウドファンディングなど色々工夫していることが分かって良かったと思います。しかし、中学校給食に関しては若い人たちが非常に期待していた。今回の延期にすごくがっかりしている声をよく聞きます。市民として協力していかないといけないなと思う。みんなで協力できるよう呼びかけをすれば声を上げてくれるところも出てくるかと思いますが、なんとか希望に変える方法を考えてほしいです。例えば、企業の社員食堂に協力をお願いする、おかずだけ、ご飯だけを持ち寄る等、名張全体で頑張っているといった動きができないかなあとすごく感じさせてもらったので、一度ご検討いただけないかなと思います。

A：市長

先ほどのお話でも色々な手法を検討したと申しましたが、企業の社員食堂についても、八幡工業団地も含めてどれくらいの食数があるか、逆に余剰分を提供してもらってお互いwin-winにならないかなどもアンケートをさせてもらい検討もしましたが、なかなかフィットする話には持っていけませんでした。

ただ、まずは私どもの方でいつまでにどうするという計画をお示しするのが重要だと思っています。実現に向けて、どんな方法があるか市民の皆さんと一緒にできることはないかも含めて考えていきたいと思っています。極論としてデリバリー（弁当）等で暫定スタートできないか、という案も試算、試案をさせていただきました。期待と意思の強さ、そしてお怒りと落胆の大きさは重く受け止めています。断腸の思いで延伸とさせていただいた状況なので、名張で住み続け、子育てしてよかったと思っていただけるよう結果を出したいと思っていますのでよろしくお願いいたします。

Q：地方交付税の見込みについて

中学校給食について今年度中に方向性を決めていきたいとおっしゃっていただきました。年間の運営費が2～3億円、これが厳しいというお話だったのですが、昨年、中期財政計画を決めていただいた中で、地方交付税交付金の見込みが低すぎるのではという気がしている。令和7年7月の交付決定で、市の予算見込み54億が国の実績57億と約3億円ほど増額しているかと思います。昨年も同様に増額している。今年度中の方針検討の際は参考にしてほしいと思います。

A：市長

おっしゃっていただいたとおり、昨年度は人事院勧告の関係で当初見込みより上がって、今年度も、当初見積もりより上がって助かった面はあります。ただ、交付税自体は来年以降も同水準を確約できる性格の財源ではなく、見込みが立ちませんので、継続事業の確実な原資としては厳しいのかなという想いで判断させていただいたという経緯です。

Q：広聴、キャッチコピーについて

市の制度に関して、パブリックコメント以外に、市に対して日頃の意見を投稿できる制度はありますか。

「なんとかなるなる」のキャッチコピーは非常に面白いが、ちょっと不真面目に聞こえる面もあります。また、今日の話にあった「未来に選ばれる」というコピーについて、「なばりの未来創造部」がありながら、名張が日本を引っ張るような未来を創ったらよいのと思います。「未来に選ばれる」というより「こちらから未来をつくる」くらいの気概が欲しい。

A：市長

市民の皆様からのご意見については、「市政へのご意見」という形で市ホームページを通じて提出していただけます。匿名、記名、回答の可否も選べます。すべて私まで報告が上がり、必要に応じて担当に指示をしておりますのでご意見をいただければと思います。

Q：市立病院について

市立病院のことについて、新聞でも見ましたが、10月からの独法化は延期できないか、とすごく思っています。独法化するということは、財政基盤がきちんとしていないと認可が下りないため5億の赤字債も借りなければいけないと

いう状況になっていると聞きました。令和3年ごろまでは病院自体の経営はそこまで悪化していなかったという認識ですが、やはりコロナの後の大変な状況や診療報酬の改定、物価高などでどこも大変なのも分かります。

知り合いの看護師さんが、先に独法化した他の病院で給料が上がらない、経営を重視するあまり待遇が悪くなった、といった情報を得たことで退職されてしまった。本当に末端まで今後の方針など説明が十分届いていなかったのでは、もっと丁寧にできなかったのかと思います。独法化することによって経営改善をするという目的であったにもかかわらず、大量退職で逆の方向にいつているので丁寧さに欠けていたのではないかと思います。そのあたり、どのように改善されるのかをお尋ねしたいと思います。

A：市長

市立病院については、三重県に独立行政法人化を申請中で、近く認可され、10月1日から独立行政法人として再スタートを切る予定です。独立行政法人ですけれども、「地方独立行政法人 名張市立病院」というように、公立病院としては変わらず、市民の皆様にとって責任は引き続いて果たしていくということは変わりません。

ただ、職員は公務員の立場から法人の職員となります。この点に対して不安をいただくということもゼロではないということから、病院に出向きまして職員の皆さんへの説明会をさせていただいたり、何度も各部署ごとにも説明をさせていただきました。それで十分だったかということについては、全ての皆様にご理解いただけたところまで浸透できたかどうかについては、十分でない部分もあったかも知れません。

一方で、独法化の元々の目的は、市の直営と違っていろんな面で自由が利き、フレキシブルな対応ができますので、より改善作業などはしやすい面もあります。厳しい状況にあります。早く独法化を成し遂げて、色々な改善がスピーディに出来るようにしたいと思っております。働かれる職員の皆さんの不安は払しょくしなければなりませんので、移行に際しては身分保証もそのままさせていただいてと説明しているところです。職員の皆様もこの難局をみんなで乗り切ろうということで、「未来会議」という会議を主体的に作っていただき、改善の活動をしていただいています。我々もしっかりとバックアップさせていただきながら、働きやすい環境を作るのはこの独法化の1つの柱ですので、結果として市民の皆様方に安定的に安心できる医療が提供できる環境を作れる、という想いで取り組んでおりますのでご理解、ご協力いただければと思います。